# 福井県におけるニシオジロビタキ *Ficedula parva* の記録

出口翔大[*1]・大西敏一[2]

要旨：福井県坂井市三国町にて 2020 年 2～3 月および 10 月にニシオジロビタキ *Ficedula parva* を観察した．観察された個体は外部形態の特徴からそれぞれ性不明の第一回冬羽の個体だと推定され，尾を上下し，枝から地面に下りて採食する等の行動が観察された．これまで福井県内においてニシオジロビタキと同定された事例は，2005 年 10 月にあわら市で観察された 1 個体のみであった．今後は福井県内においてオジロビタキ *F. albicica* も含めた両種の観察情報の集積が望まれる．

キーワード：過去の記録，採餌行動，坂井市，第一回冬羽，福井県初記録

**Shota DEGUCHI[*1], Toshikazu Onishi[2]. 2021. The records of Red-breasted Flycatcher *Ficedula parva* in Fukui prefecture. Ciconia (Bulletin of Fukui Nature Concervation Center) 24:15-19.**

Red-breasted Flycatchers were observed on February- March and October, 2020 in Mikuni-cho Sakai city, Fukui. Both of observed individuals were presumed the first winter and of unknown sex. They flicked their tail and descended to the ground from tree branches to forage. So far there is only one case that has been identified as Red-breasted Flycatcher in Fukui prefecture, which was observed in Awara City in October 2005, and this is the first record of the species in Fukui Prefecture. Accumulation of observation information about both species including Taiga Flycatcher in Fukui prefecture is needed in the future.

**Key words:** First record in Fukui prefecture, First winter individual, Foraging behavior, Previous records, Sakai city

## はじめに

日本にはニシオジロビタキ *Ficedula parva* とオジロビタキ *F. albicica* の 2 種類のオジロビタキ類が渡来する（真木ほか 2014）．ニシオジロビタキはヨーロッパ中部からウラル山脈にかけて繁殖し，主にアフリカ北部およびインドで越冬する渡り鳥で，日本には数少ない旅鳥または冬鳥として渡来する（真木ほか 2014）．日本鳥類目録第 6 版（日本鳥学会 2000）においてオジロビタキは *F. p. parva* と *F. p. albicica* の 2 亜種が認められており，後者が日本に渡来するとされていたが，日本鳥類目録第 7 版（日本鳥学会 2012）では近年の研究成果を受け，ニシオジロビタキ *F. parva* とオジロビタキ *F. albicica* の独立した 2 種類にしている（ただしニシオジロビタキは検討種扱い）．福井県ではこれまでにオジロビタキ類の記録はあるものの，亜種または種の識別がなされた事例はない（日本野鳥の会福井県支部 2005；柳町・鈴川 2008；山根 2015）．今回筆者のうち出口は 2020 年 2～3 月および同年 10 月にそれぞれ福井県坂井市三国町においてオジロビタキ類を観察し，ニシオジロビタキとして同定したので報告する．以後，前者の観察事例を事例 1，後者を事例 2 として扱う．

## 観察場所・日時

事例 1：2020 年 2 月 28 日午前 7 時～8 時 18 分，3 月 2 日午前 9 時 50 分～10 時 30 分および 3 月 8 日午後 4 時 8 分頃の計 3 回，観察を筆者一人で行った．

事例 2：2020 年 10 月 26 日の午前 11 時 50 分～午後 4 時 29 分の間に筆者の出口ほか，日本野鳥の会福井県会員の柳町邦光氏，高谷浩一氏の三人で観察を行った．

両事例とも観察場所は坂井市三国町安島の海浜自然公園内の梅園とその周辺であった．県内では他の梅園でも観察された事例がある（山根 2015）．本園は主にツバキ *Camellia japonica*，ウメ *Prunus mume*，サクラ属 *Prunus* sp.，サルスベリ *Lagerstroemia indica* 等が一定の間隔で植栽されており，下層植生はほとんど無く，開けた環境であった．また周囲にはササ属 *Sasa* sp.のやぶや，生垣，アスファルトの駐車場，散策路，クロマツ *Pinus thunbergii* が疎らに生育する芝生広場があった．

* 連絡・別刷請求先（Corresponding author）
1 福井市自然史博物館　〒918-8006　福井県福井市足羽上町 147
Fukui City Museum of Natural History. Asuwakami-cho 147, Fukui, Fukui 918-8006, Japan.
2 日本野鳥の会 大阪支部　〒 554-0022　大阪府大阪市此花区春日出中 1-3-19-401
Osaka Branch of the Wild Bird Society of Japan. 1-3-19, Kasugadenaka, Konohana-ku, Osaka City, Japan, 554-0022

**図1．2020年2〜3月に観察された事例1個体の外部形態（撮影：出口翔大）．**
**本稿のカラー版は福井県自然保護センターのホームページにて閲覧可能（https://fncc.pref.fukui.lg.jp/reference/report/ciconia）．**
**Figure 1. Morphology of the individual observed from February to March in 2020 (Photographed by S.Deguchi).**
**Color version is available in Fukui Nature Conservation Center's HP.**

## 種を同定した基準

両事例で観察された個体（以下，両個体という）は共通してスズメ *Passer montanus* より小さく，上面は一様に灰褐色で足は黒色，尾羽は黒褐色であった（図1ab，2ab）．また尾を翼の先端より上に上げる行動をよく行い（図2d），飛翔など尾羽を開いた時には外側尾羽基部の白色部が目立った（図1b，2b）．これらの特徴を有する日本産鳥類はオジロビタキとニシオジロビタキの2種が挙げられる（真木ほか2014）．両個体は，上嘴が黒で下嘴は基部が橙黄色（図1a, 2c），上尾筒は灰褐色であったが，最長上尾筒は尾と同じ黒褐色で（図1b，2b），ニシオジロビタキの特徴に合致した（真木ほか2014）．また，両種の地鳴きは異なっており，オジロビタキの地鳴きが「ジリリリッ」と聞こえるのに対し，ニシオジロビタキでは「ティティティティ…」と聞こえるが（真木ほか2014），両個体の地鳴きは後者に近かった．以上の点から両事例において観察されたオジロビタキ類はともにニシオジロビタキであると判断された．

しかし，両個体には相違点も認められた．事例2個体は事例1個体に比べて額，耳羽，喉，胸および脇腹のバフ色味が強く（図2d），大雨覆羽の先端にバフ色の小斑が認められた（図2abc）．これらのことから事例2個体は第一回冬羽であると考えられた（Svensson et al. 2009；スベンソン2011；真木ほか2014）．一方で事例1の個体は喉から体下面が白っぽくバフ色味に欠けていた（図1ac）．ただ，大雨覆数枚に幼羽の特徴である淡色斑が痕跡的に認められ（図1ad），また三列風切羽先端に幼羽の持つ淡色斑が摩耗した際にできる凹みが見られた（図1d）．これらの部位は幼羽であると考えられ（Ottenby Bird Observatory 2015），当個体も第1回冬羽の個体と結論づけた．体下面が白っぽいことは，観察時期が2月下旬から3月上旬であることから，体羽の退色や摩耗が進み，バフ色味が失われているものと推測された．なお，本種の幼鳥および第一回冬羽の場合，性の識別は困難である（Svensson et al. 2009；真木ほか2014）．

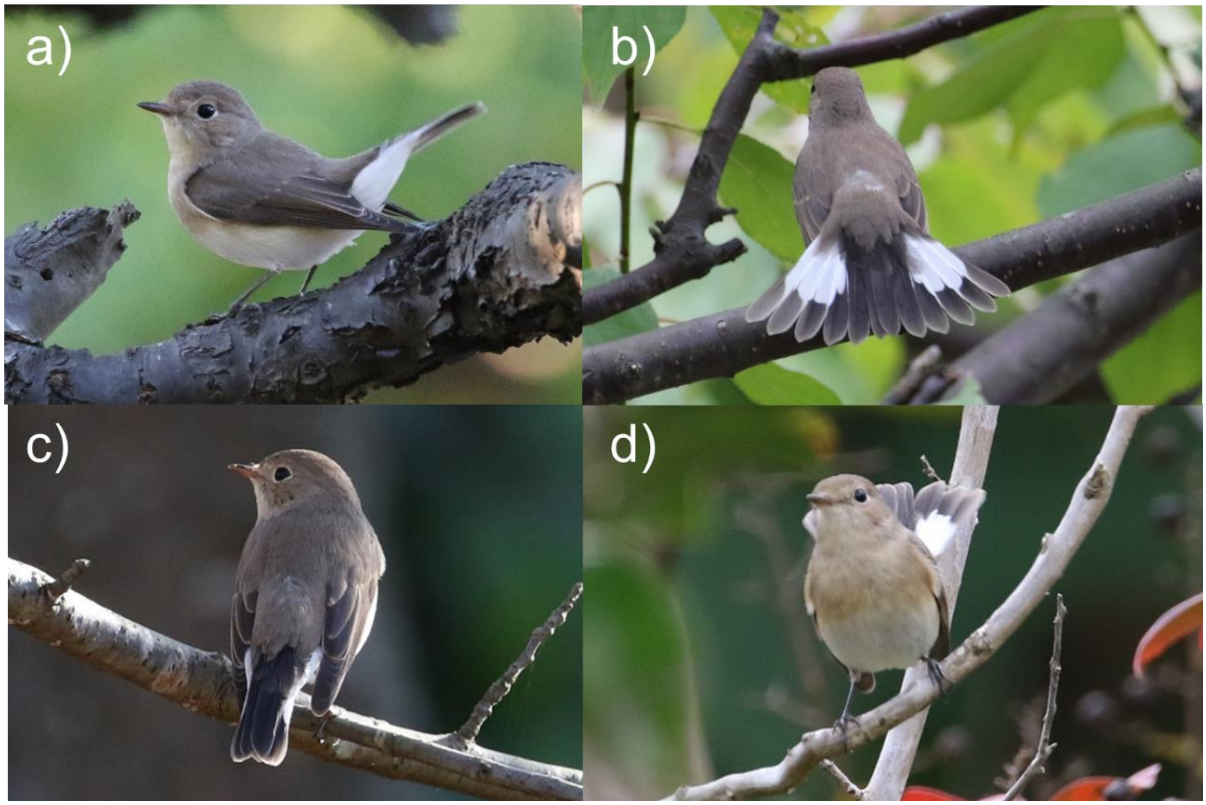


**図２．2020 年 10 月 26 日に観察された事例２個体の外部形態（撮影：出口翔大）．**
**本稿のカラー版は福井県自然保護センターのホームページにて閲覧可能（https://fncc.pref.fukui.lg.jp/reference/report/ciconia）．**
**Figure 2. Morphology of the individual observed on October, 26th, 2020 (Potographed by S.Deguchi).**
**Color version is available in Fukui Nature Conservation Center's HP.**

## 観察した行動

両個体は上述の地鳴きを繰り返し，それにより存在に気づくことが多かった．

事例 1：2 月 28 日および 3 月 2 日は木の枝や切株，背の低い支柱など目立つ所に止まり，地面に降りては（図 1c），飛んで 2～3m 移動するという行動を繰り返した．止まる木の枝の高さは目測で約 0.4～2m で，ウメの木の枝に止まる際には高い位置に止まる傾向にあったが，下枝や背の低い支柱が無かったことによると考えられた．枝に止まっている間は頻繁に尾羽を上に振る行動が目立った．地面に降りると，ツグミ属 *Turdus* sp.のように飛び跳ねて移動（図 3a），または地面間を羽ばたいて移動し，落ち葉の下に嘴を突っ込み（図 3b），採食する行動が観察された（図 3c）．任意の 4 分間の内，地面に降りた平均回数は 7.6 回で，時間の経過に伴い減少傾向にあった（n=4，表 1）．このことは採食行動を重ねるにつれ，本個体の餌の要求量が低下したからかもしれない．本事例では，採食は地上でのみ観察され，かつ餌種の特定は困難であった．しかし新潟県の事例では空中や樹上など様々な環境で採食を行い，鱗翅目の幼虫やユスリカ科など主に昆虫を捕食する行動が観察された（高田 2019）．3 月 8 日には梅園の隣に生育するクロマツの高い枝に止まる姿を観察したが，その後，本個体がいつまで滞在したかは不明である．2 月 28 日に付近で確認されたそのほかの鳥種はメジロ *Zosterops japonicus*，カワラヒワ *Chloris sinica*，シメ *Coccothraustes coccothraustes*，シジュウカラ *Parus minor*，ウグイス *Horornis diphone*，セグロセキレイ *Motacilla grandis*，ルリビタキ *Tarsiger cyanurus*，ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* であった．

事例 2：ウメ等の木の枝から地面に降りる行動がよく観察されたが，事例 1 個体のように地面から地面を移動することはなく，一度枝に止まることを介して地面に降り立った．また，枝に止まって鳴きながら，尾羽を振り上げ，開いて下ろすという行動を頻繁に行っていた（図 2b）．

**表１．事例１の個体が 4 分間に地面に下りた回数**
**Table 1. The number of times the individuals in case 1 descended to the ground during four minutes.**

| 開始時間　Starting times | 7:27 | 7:52 | 7:59 | 8:06 |
|---|---|---|---|---|
| 回数　No. of times | 13 | 10 | 7 | 3 |

**図３．事例１個体の採食行動（撮影：出口翔大）．**
**本稿のカラー版は福井県自然保護センターのホームページにて閲覧可能（https://fncc.pref.fukui.lg.jp/reference/report/ciconia）．**
**Figure 3. Foraging behavior of the individual observed from February to March in 2020 (Photographed by S.Deguchi).**
**Color version is available in Fukui Nature Conservation Center's HP.**

## 過去の記録とその文献

福井県内においてこれまでオジロビタキ類の観察記録は 2004 年，2005 年，2008 年および 2015 年の 4 件あり（日本野鳥の会福井県支部 2005；柳町・鈴川 2008；山根 2015；表 2），2004 年の鯖江市における記録が日本野鳥の会福井県支部のオジロビタキ類の初記録となっている．しかし他の記録と同様に亜種または種の識別については検討されておらず，当時撮影された写真からも種の識別は困難であった（日本野鳥の会福井県支部 2005）．筆者のうち大西が 2005 年にあわら市冨津にて観察した個体は，撮影した写真からも上述のニシオジロビタキとしての特徴を備えており（図 4），本個体が本県における本種の初記録となる．一方，現時点で県内においてオジロビタキ *F. albicica* については同定された事例がない．両種とも数少ない旅鳥または冬鳥として全国に渡来し，近年では越冬例も増えている（真木ほか 2014；梅垣 2017）．したがって両種とも今後県内で記録される可能性は十分にあり，オジロビタキ類の記録集

**表２．福井県内におけるこれまでのオジロビタキ類の記録**
**Table 2. Previous records of Red-breasted Flycatcher and Taiga Flycatcher in Fukui prefecture.**

| 観察年月日<br>Date | 観察場所<br>Locaition | 観察者<br>Observer | 亜種または種名<br>Subspecies or species name | 出典<br>Source | 備考<br>Remarks |
|---|---|---|---|---|---|
| 2004年12月1日<br>Dec. 1, 2004 | 鯖江市桜町<br>Sakura-machi, Sabae city | 須本一郎 | 不明 unknown | 日本野鳥の会福井県支部（2005） | 日本野鳥の会福井県支部初記録<br>2004年12月20日過ぎまで確認 |
| 2005年10月31日<br>Oct. 31, 2005 | あわら市富津<br>Tomitsu, Awara city | 大西敏一 | ニシオジロビタキ<br>*F. parva* | 大西敏一　私信 | |
| 2008年11月4日<br>Nov. 4, 2008 | 福井市川尻町　三里浜ハマナス公園<br>Kawajiri-cho, Fukui city | 柳町邦光・鈴川文夫 | 不明 unknown | 柳町・鈴川（2008） | 2008年11月11日まで確認 |
| 2015年2月24日<br>Feb. 24, 2015 | 三方上中郡若狭町成出<br>Narude, Wakasa town | 山根眞一 | 不明 unknown | 山根（2015） | |
| 2020年2月28日<br>Feb. 28, 2020 | 坂井市三国町安島　三国海浜自然公園<br>Antou Mikuni-cho, Sakai city | 出口翔大 | ニシオジロビタキ<br>*F. parva* | 本報告 | 2020年3月8日まで確認 |
| 2020年10月26日<br>Oct. 26, 2020 | 坂井市三国町安島　三国海浜自然公園<br>Antou Mikuni-cho, Sakai city | 出口翔大・柳町邦光・高谷浩一 | ニシオジロビタキ<br>*F. parva* | 本報告 | |

**図4．2005年10月31日に観察された個体の外部形態（撮影 大西敏一）．**
**本稿のカラー版は福井県自然保護センターのホームページにて閲覧可能（https://fncc.pref.fukui.lg.jp/reference/report/ciconia）．**
**Figure 4. Morphology of the individual observed on Octorber. 31th, 2005 (Photographed by T.Onishi).**
**Color version is available in Fukui Nature Conservation Center's HP.**

積が望まれる．

今後，県内未記録等の種類を確認した際は，将来的な再検証を可能にするために，その種の特徴や行動などと共に報文として残すことが重要だと考えられる．本報告では既往の報文のおかげでニシオジロビタキの県内における過去の記録を検証できた．また，報文では亜種の検討まで行えると理想的である（森本・高橋 2012）．

## 謝辞

新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里の佐藤悠子氏には文献を探していただいた．ここに記して御礼申し上げる．

## 引用文献

真木広造・ 大西 敏一・五百澤日丸．2014．決定版 日本の野鳥 650．平凡社，東京．

森本元・高橋雅雄．2012．鳥類の野外観察や捕獲調査における亜種同定の重要性とその学術論文化の必要性．日本鳥類標識協会誌 24: 20-25.

日本鳥学会．2000．日本鳥類目録改訂第 6 版．日本鳥学会，帯広．

日本鳥学会．2012．日本鳥類目録改訂第 7 版．日本鳥学会，三田

日本野鳥の会福井県支部．2005．福井県支部報つぐみ No.139．日本野鳥の会福井県支部，福井．

Ottenby Bird Observatory. 2015. Ringers' DigiGuide – *Ficedula parva*. www.ringersdigiguide.ottenby.se（参照日：2020/12/30）

スベンソン L. 2011．ヨーロッパ産スズメ目の識別ガイド（村田 健・尾崎清明・茂田 良光訳）．文一総合出版，東京．

Svensson, L., Mullarney, K., Zetterström, D. 2010. Collins bird guide 2nd edition. HarperCollins Publishers Ltd., New York.

高田大貴．2019．新潟県新潟市で冬季に観察されたニシオジロビタキ．新潟県生物教育研究会誌 (52): 51-52.

梅垣佑介．2017．冬のオジロビタキが増えている？～オジロ・ニシオジロ問題の新展開～．BIRDER 31 (10): 41.

山根眞一．2015．野鳥情報オジロビタキ．日本野鳥の会福井県会報つぐみ No.174: 11.

柳町邦光・鈴川文夫．2008．オジロビタキ *Ficedula parva* 2008 年 福井県内での記録．Ciconia（福井県自然保護センター研究報告）13: 31-32.